

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100754		
法人名	株式会社あいの里		
事業所名	グループホーム美里 壱		
所在地	福島県福島市南矢野目字道下36-12		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの行事に取り組んでいる。季節の節目に関して(節句等)入居者と一緒に行う。 ・旬の素材を活かした美味しい料理を提供している。 ・入居者の誕生日にユニットの入居者、スタッフ全員でお祝している。長寿のときは盛大に。 ・中庭の畑で野菜作り、お花を育て季節感を味わって頂いている。 ・中庭の散歩を天気の良い日に同行している。入居者の感想を聞きながら。 ・入居者と一緒に調理、片付けを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員は、利用者の「本人のやりたいように過ごしてもらうこと」を一番大切に、一人一人の思いに寄り添ったケアに努めている。外に出たい、散歩したいという利用者には特に制限をしないで、職員が後ろから見守っている。また、利用者の生活歴や職歴、住んでいた地域のことなどを丁寧に聞き取っている。 2. 事業所では、毎日の食事が楽しみになるよう、献立を日々利用者が興味を示すテレビや広告からヒントを得て作成し、職員の得意料理を提供する日を設けるなど取り組んでいる。食材は、地域での購入や畑の収穫物、差し入れ等を利用し、行事や誕生会では食事や余興に趣向を凝らし利用者から好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、ユニット会議を通して理念の唱和を行い自己啓発に努めている。	法人が作成した理念を事業所内に掲示し、職員や利用者へ周知している。分かりやすい文言で理解しやすく、職員間で共有し利用者を「お客様」ととらえ理念の実践に努めている。	法人全体の理念を尊重しながら、グループホーム独自の理念を職員の視点で作成することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であるため外部との接触はできていない。散歩などで外へ行かれる時は挨拶等によりコミュニケーションをとっている。ゴミ捨てに行くときも同様。	近所の音楽教室に通う子どもや運営推進会議委員の余興などの訪問がある。また町内会に加入し、クリーン清掃などに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状付近の住民からの理解は難しいと思われるが、近所のお宅に知り合いがいるという入居者がおり、散歩の後訪ねている。不在のことが多い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍であるため書面での通知を行っている。	運営推進会議は対面で実施し、議事録を郵送している。内容は、事故・ヒヤリハットの報告やコロナ状況の確認、また行事やイベントなどの計画や実施状況の意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている入居者がおり、定期的に不明なことを連絡を取り合って理解できるようにしている。	市役所とはコロナ状況や介護保険で連携をとっている。また、生活保護受給者も受け入れており、市担当の訪問もあり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外行っていない。外へ行かれる入居者はいるが同行し外を歩くようにしている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束防止委員会身体拘束排除マニュアル及び適正化指針を策定し、職員教育を行っている。またチェックリストで自己点検をしている。	最低年2回は研修が求められており、外部研修に参加し、伝達研修を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は日頃の言葉遣いからお客様に対してという意識を持って日頃のケアを行っている。入居者に対し意識を高く持って対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいないが理解が深まるよう式のユニットで利用していることを伝え、共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わすときに不明な部分、疑問点を答えることで内容の理解をして頂いている。改定があった時は郵送、電話にて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行っていないので意見、要望を受ける機会が少ないため、直接家族様より聞くことにしている。	家族がグループホームに来所した時、要望や意見を聞き取るように意識している。以前、家族からの要望に対して職員間伝達不足で迷惑をかけたことがあったので、職員同士の情報共有を改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	就業規則を年に読んでもらうことがある。規則について不明な点、意見を聞く機会がある。提案は職員へ話を聞く機会を設けている。	管理者は年2回職員面談を行い、職務や処遇に関しての改善に活かしている。また就業規則の読み込みなども行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価や努力されていることを毎月の全体会議後に代表者へ話している。代表者よりコメントを受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアを上司や先輩が確認し、月に一度内部での研修を行っている。働きながらトレーニングできる環境を整え確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのつながりは入居の受け入れ、もしくは入居案内を行っている。勉強会などは行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、家族へも協力体制が取れるよう話を進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望も聞き困っていること、要望に沿えるよう面会時に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の「その時」を見逃さないよう日頃から見守り、記録を活かすことでその人らしい生活が営むことができるよう考えている。利用開始の頃は家族への協力体制をお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立されている方へは軽作業の支援、案内をし、介助が必要とされている時は本人のできることを続けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の必要な物を家族と共に情報の共有をし連絡を取り本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は家族以外の方との関係はない。要望があれば聞くようにしている。	利用者の希望に応じて、家族との関係が継続するようお便りで近況を伝えるなど、関係が途切れないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士はお互いに行動できる対応、声掛けを行っている。一人で孤立しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も来初された場合、相談ごとに耳を傾けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身で行動されている時は本人の意向に任せている、危険な時、困難な時は職員が支援している。	「本人のやりたいように過ごしてもらうこと」を一番大切にしている。外に出たい、散歩したいという利用者には特に制限をしないで、職員が後ろから見守っている。また、利用者の生活歴や職歴、住んでいた地域のことなどを丁寧に聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査のときに知りえなかったことは家族に連絡して情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ある程度生活の流れがパターン化されているが突発的なことは当日の職員で考えて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて話し合った内容を職員が把握し、出来上がった介護計画を家族へ確認している。そこからの実践を行っている。	担当職員が介護支援専門員とともに作成し、3ヶ月毎にモニタリング、再アセスメントしてケアマネジメントを展開している。ケアプランの文言作成が難しいようである。	ケアプラン作成にあたって、職員間で話し合う他、協力医等の専門家のアドバイスを受けるなど、より介護計画の内容の充実が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを中心に日々のケアに関してその日の出勤する職員同士で話し合っている。一日の生活の様子を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的なサービスを忠実に守ることは大切にして、職員の新しい発想、提案を取り入れている。入居者の外出は状況に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握できていない。本人の心身の力を発揮できるよう努める必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけなじみのあるかかりつけ医を利用して頂いている。家族の支援が困難な場合は訪問診療を利用して頂いている。また、職員が同行して受診する場合もある。	入居時、通院先について話し合い、かかりつけ医希望者は家族が同行し往診希望者は訪問医療機関を利用している。訪問看護師が毎週訪問し、主治医と連携し利用者の健康管理を行っている。歯科通院は必要時近所の歯科へ通院し、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を行い、毎週入居者の情報をノートに記し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にサマリー等の情報を提供し、情報の共有を行っている。退院に対して病院側へ連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期と思われる時に家族、看護師、かかりつけ医師へ相談し十分な説明ができるよう方針を整えチームで取り組めるよう行っている。	入居時に指針に基づいて説明し、看取り期に主治医から説明を受け、書面で同意を得、看取り計画書を作成し職員がチームとなって支援をしている。コロナ禍ではあるが、家族面会・宿泊を受け入れ、一緒に過ごしてもらい取り組みをしている。看取り研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故マニュアルを基本に応急処置、緊急搬送に対応できるよう訓練をしている。不安がある時は職員へヒアリングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	職員全員が避難方法を理解しているとは言いがたい。訓練を重ねることにより少しずつ理解をしていくようにする。	総合避難訓練・自主訓練（通報・連絡網・避難誘導、夜間想定等）と日勤者の火気・通路の避難障害等の点検、年2回の防火管理者の消防用設備点検等を実施している。消防署へ総合避難訓練の立ち会いを要請するが協力が得られていない。備蓄は本部が定期的に入れ替え災害に備えている。本部がBCPを作成中である。	消防署へ総合避難訓練時の立会いを再度要請し、訓練の総評を受け今後に活かし、また、消防署との連携を深めていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の名前を呼ぶときに人生の先輩であるよう尊重し、さん付けで対応している。トイレ案内はさりげなく耳元で声掛けを行い案内している。	利用者がその人らしい尊厳ある姿を大切にするため、一人一人の思いを尊重し寄り添い、安心して暮らせるように努めている。また、個人情報には鍵が掛かるキャビネットで適正に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人が役割を持ち本人が自ら行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースを乱すことなく本人の希望に沿った支援を行っている。外へ行きたい、食べたいなどに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日衣服の交換を行い、大きい行事や本人の誕生会にはおしゃれに気を配り対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	現在は基本的に黙食を推進しているが、料理の味付けや彩りに関して感想を聞き少しでも食事に興味が持てるよう努めている。	食材は、地域での購入や畑の収穫物、差し入れ等を利用している。献立は日々利用者が興味を示すテレビや広告からヒントを得て作成し、職員の得意料理を提供する日を設けるなど、食事が楽しみになるよう取り組んでいる。行事や誕生会は、食事や余興に趣向を凝らし利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者別に食事量、水分量の把握はできている。食事介助が必要な方、自力で摂取している方に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	少なくとも一日3回のおむつ交換を行っている。排泄パターンに合わせて案内している。おむつの使用を少しでも減らせるようチームで話し合っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、定時誘導と行きたいときに行ける支援をし、トイレでの自立排泄に向けた取り組みをしている。また、オムツ使用者へは、定時確認をし、汚れている時に適宜交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在便秘の方はいない。水分量や乳製品を摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂に入りたいときに入る。入らないときは無理強いせず、時間や声掛けのタイミングを変えて対応している。	入浴は週3回とし、時間帯は日中とするが、希望が有るときは入浴が出来るようにしている。お湯は一人一人入れ替え、季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。入浴を拒む場合は声を掛ける職員や時間を変えたり、静かに足からシャワーをするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後にすぐに居室へ案内するのではなく眠りのサインや声掛けにより案内している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員は理解していないがある程度薬の目的や用途について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日当たりの良い日には中庭の前で複数人で日向ぼっこを行っている。嗜好品をたしなむ方はおりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	進んで外へ出かけられる方はいないが、安全を考慮したうえで外へ行かれる方に同行している。	コロナ禍で、買い物等は自粛しているが、散歩や地域の名勝地への花見・新緑・紅葉狩りへドライブへ出かけ、以前住んでいた地域へ回り道を行い喜ばれている。単独外出時は、無理に引き留めず、職員がそとついでに行き安全を確保し希望に沿った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方がいないが、本人が必要なものは家族より持ってきて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をかけることはないが家族から通話したという時には本人へ電話で話せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはシンプルにしている。余計な物を置かないでなじみの品、衣料品のみにしている。ものが散乱することはない。	廊下に利用者の習字を掲示し、リビングの壁は行事時の飾りつけ等に活用している。また、リビングから広々とした中庭や花木や農作物が眺められ、開放感がある。温・湿度は職員が管理し居心地よく暮らせる場所となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で相性を考えて席の配置を行っている。随時対応できるように席のレイアウトを考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	なじみの物(家族写真など)をセットしている。本人が混乱しないように心掛けている。衣服もシーズンごとに入れ替えし、不要な物は家族へお返ししている。	居室は、トイレ・洗面台・ベッド・整理箆筒が備え付けられている。持ち込み品は制限はされていないが、家族が季節ごとに整理をしいるので、整理整頓されスッキリとしている。家族写真や趣味の本、パズル等を持参し、その人らしく暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人で歩行するときにはなるべく手すりをつたって歩いて頂けるよう声掛けをしている。		